

差別や偏見のないまちを目指してシトラスリボン運動を実施

～新型コロナウイルス感染症が広がりを見せる今だからこそ～

【目的】

新型コロナウイルス感染症の脅威が続く中、感染者や回復した人、濃厚接触者、医療従事者やその家族の方などに対し、心無い言動や不当な扱いなどの差別や偏見は決してあってはなりません。

そこで、市民一人ひとりが感染症に対する正しい理解を持ち、互いに支え合い、励まし合えるまちを目指すための啓発活動として、現在全国に広まりつつあるシトラスリボン運動に賛同し運動を広めていきます。

シトラスリボン運動とは

愛媛県の市民グループが始めた試みで、シトラス色のリボンや専用ロゴ(「地域」「家庭」「職場(学校)」を表す3つの緑色の輪がシンボル)を身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表し、感染者等が地域に帰って来たときに普段どおりの生活が送れるような「温かい、優しさ溢れる地域づくり」を進める運動。

【事業の概要】

①啓発グッズ(シトラスリボン作製キット)の作製

市内全小学5年生～中学3年生に配付する「シトラスリボン作製キット(約10,000個)」の作製は市内の障害者就労施設へ依頼します。

②シトラスリボン作製キットの配布・活用

小中学校の授業で、シトラスリボン運動の趣旨を説明しリボンを作製することをきっかけとして、新型コロナウイルスに感染した人等への差別や偏見だけでなく、全ての人の人権を尊重することの大切さを啓発していきます。



③市職員もシトラスリボンを作製して名札等に着用

市職員も自らシトラスリボンを作製し、名札等にリボンを着用することで広く市民の皆さんへ啓発していきます。